

# たぐみ

T A K U M I

No.007

平成 12年1月 ● 新春号

## 信州名匠会

(題字：池田三四郎名誉会長)

# 注目したい伝統的屋根材「檜皮」<sup>ひわだ</sup> 平成11年度総会開催



●記念講演会で「檜皮」について語る藤森会長



●井内八雄氏を議長に進んだ総会



●あいさつする宮本副会長。懇親と情報交換に花が咲いた祝宴会場



●親睦ゴルフ大会で。

左から大日向幸生（本久）新井庄市郎（新建新聞）西宮登喜男（綿内瓦工業）宮本忠長副会長、左右田昭道（インテック左右田）吉田義男（新建築）西澤嘉雄（事務局）、倉橋英太郎（倉橋設計）の各氏

平成11年6月24日、長野市・御本陣 藤屋旅館において、平成11年度信州名匠会通常総会を開催。当日は、本年度事業報告と会計・監査報告および平成11年度事業計画と事業予算の決定などを行った。続いて藤森照信会長を講師に迎えて記念講演会を催し、建築用自然素材「檜皮」についてスライド映写をまじえて聞いた（P.2に詳述）。また翌25日には、長野カントリーゴルフで親睦ゴルフ大会を開催し、腕を競うとともに、会員相互の交流を深めた。

# ひわだ 「檜皮」を見直す

## 信州名匠会会長 藤森照信



ロープで足場を作り、自作の木製ヘラを使って上へ上へと丁寧に檜皮をはいていく

平成11年度通常総会において、藤森照信会長の記念講演が行われた。テーマは「檜皮」。石や土、草木といった建築用自然素材を研究し、自ら設計を手がけた建築に積極的に採用している藤森会長があらためて視線を注いだ、日本の伝統的屋根材である。以下に、その要旨を紹介する。

### 日本を代表する屋根材

檜皮は、日本の建築史に名を残す重要建築の屋根に採用されてきた。京都御所や出雲大社、吉備津神社、善光寺、室生寺五重塔などいずれも檜皮葺きである。比較的大きな屋根に用いられ、他の屋根材では出すことのできない柔らかで上品な肌合いと、ゆるやかに優美なカーブを描く屋根の形状が特長だ。

日本で植物性の素材を使った屋根は、3種のみ。茅葺き、板葺きと檜皮葺きである。このうち茅葺きや板葺きは世界中に見られるが、私を知る限りでは、檜皮葺きは日本独自のものだ。檜皮の歴史を振り返れば日本を代表する屋根材の一つといえそうだが、建築界における注目度は低く、また謎の多い材である。

檜皮葺きの石上神宮拝殿（国宝、鎌倉前期）



### 職人も檜皮の生産量も減少の一途

奈良県の<sup>いそのかみ</sup>石上神宮を訪ね、檜皮の採取と加工、施工の現場を見せてもらった。

原皮師<sup>もとかわし</sup>と呼ばれる職人さんの実態はよく分らない。彼らは原料確保のため単独で行動し、採取する場所も生産量も公表しない。戦前には百数十人いたようだが、現在は十数人、うち専業は3、4人と思われる。

この原皮師が、木の皮のきまった層の境目にヘラを差し込んで器用にはがす。若くとも樹齢70~100年のヒノキでないと、檜皮の品質も耐久性も保証できない。200年の木が最上で、1本から10kg採れる。1人で屋根1坪分に必要な量を採取するのに、1週間を要する。生産性は予想以上に低い。採取した檜皮を均一のサイズに成形したのち、竹製の釘で1枚1枚打ちつけていく。気が遠くなりそうな、時間のかかる仕事である。

### 国宝的伝統技術

檜皮葺き屋根の施工価格は、坪50万円だという。銅板葺きが坪5万円程度であることを考えると、非常に高価である。ふさわしい建築に採用してみたい希望は持っているが、実現は困難だ。



これまでに注目し、自分でも扱ってきた自然素材は、世界のどこにでもあり、どこで扱っても似たような形になるという点で共通している。工業製品の対極にあるもうひとつのインターナショナルな存在として、面白さを感じてきた。しかし檜皮葺きだけは例外で、材料の調達も施工も日本でしか成立しない。ナショナルかつトラディショナルな檜皮葺きを、国宝的伝統技術という位置づけで大切に受け継いでいきたい。

檜皮をはがしに挑む藤森会長。最適な深さにヘラを差し込む技術は、簡単には身につかない

## 吉岡文庫育英会より研究補助金30万円

総会の席上、新建築社 吉田義男社長(名匠会顧問)より、(財)吉岡文庫育英会の研究補助金として信州名匠会に30万円が給付されました。名匠会では育英会と補助金の趣旨が末永く反映されるような活用方法を検討しております。心より感謝申し上げます。

### 平成10年度 信州名匠会 事業報告

平成10年

- 6月25日(木) 平成10年度信州名匠会総会 参加者44名  
記念講演 藤森照信新会長  
懇親会 藤屋旅館
- 6月26日(金) 親睦ゴルフ大会 参加者11名
- 7月22日(水) 解体修理記録(桂離宮) 参加者12名
- 8月25日(火) 研修会「塗装について」参加者11名  
日本ペイント(株) 高栄正樹氏
- 9月24日(水) 研修会「水について」参加者14名  
信州大学教授 浅野良晴先生
- 10月28日(水) 研修会「屋根板金工事について」参加者18名  
(株)二見屋 水沢仁亮氏
- 10月30日(金) 「たくみNo.5」発行
- 11月14~15日 研修旅行「新潟県の建築見学」 参加者21名
- 12月21日(月) 研修会「屋根防水・シーリング防水について」参加者14名  
坂田工業(株) 坂田守夫氏

平成11年

- 1月27日(水) 新年会 参加者33名
- 2月24日(水) 研修会「瓦について」参加者16名  
(株)屋根技術研究所 都築巖氏
- 3月26日(金) 研修会「作庭について」参加者13名  
(株)さつき苑 久保敏幸氏
- 4月21日(水) 研修会「畳について」参加者14名  
(株)インテック左右田 左右田昭道氏
- 5月26日(水) 研修会「内装材・インテリアについて」参加者22名  
(株)サンゲツ 森田卓氏
- 6月5日(土) 「たくみNo.6」発行

## ■3ツ星めざして研鑽を —スリースター制度創設—

信州名匠会では1993年の発足以来、年1回の総会における記念講演会や毎月の定例研修会、年1回の研修旅行を行って、会員同士がともに学び、親睦を深めながら相互に情報交換を行う場を共有してきた。

これらの活動が回を重ねるにつれ、このかけがえのない実務教育の場に参加し研鑽に努めてきた会員をもっと相互に認め合おうという声が高まってきた。そこで当会では、会員同士が互いの実力を認め、その誇りを仕事の励みにしていこうと「スリースター制度」を創設した。

この制度は、研修会1回出席につき1単位として10単位で星1つを与えるというもの。下記のとおり、すでに10名の会員が1ツ星の認定を受けている。1～2年の内には3ツ星認定者も現れる見込みだ。3ツ星をめざして、会員諸氏のより一層熱心な活動参加が期待される。

### ●1ツ星認定者名簿 (平成11年6月24日現在)

- 伊藤章／(有)アキ・プランニング
- 関克弘／坂田工業(株)
- 西宮登喜男／(有)綿内瓦工業
- 堀誠／堀建築設計事務所
- 岡澤元彰／(株)本久
- 五明良平／(株)五明
- 坂田守夫／坂田工業(株)
- 若林義久／(株)二見屋
- 西澤嘉雄／(株)宮本忠長建築設計事務所
- 穎原澄子／(株)宮本忠長建築設計事務所

## 木組みに凝縮された職人魂

上越市出身の日本画家・小林古径の旧家(吉田五十八設計、岡村仁三施工、昭和9年)は初期の近代数寄屋様式をよく伝える建築。伝統的な建築様式の再構築を図り、より洗練された日本のスタイルを実現している。通し柱を一切用いず、貫を生かした巧みな木組みで自由度の高い空間構成。表面に出ない構造部分に「職人の魂」が感じられる。

復元では桁や梁を隠し、広く洗練された美しい内部空間を忠実に生かす。一部使えないものを除き、古材をそのまま使用。壁の内外から構造用合板を張って耐震性を強めたり、屋根瓦の下に融雪シートを敷くなど気候風土に合わせた配慮も行っている。

## 平成11年度 信州名匠会 年間スケジュール

平成11年

- 6月24日(木) 総会
- 6月25日(金) 懇親ゴルフ大会(長野カントリー)3組予定
- 7月21日(水) 上越市 小林古径邸現場見学
- 8月25日(水) 研修会「ガラス工事について」
- 9月22日(水) 講演会(未定)
- 10月27日(水) 研修会「県産木材について」
- 11月13～14日(土・日)

研修旅行「富山県の建築見学」(瑞龍寺他)

- 12月22日(水) 研修会「あかりについて」

平成12年

- 1月26日(水) 新年会
- 2月23日(水) 研修会「左官工事について」
- 3月22日(水) 研修会「木製サッシュについて」
- 4月26日(水) 研修会「陶芸について」
- 5月24日(水) 研修会「建築金物について」
- 6月21日(水) 平成12年度総会
- 6月23日(木) 懇親ゴルフ大会

\* 研修会 場所：緑草舎(長野市) 松本市内等  
時間：午後6:30～午後8:30

\* 研修会内容・日時については変更もあります。

## 定例研修会Report

### 【小林古径邸復元事業 現場見学会】

於：上越市高田城址内

平成11年7月17日

講師：(株)宮本忠長建築設計事務所 西澤嘉雄氏



## 【複層ガラス・DPG工法】

平成11年8月25日

講師：セントラル硝子(株) 窪田真治氏・鈴木満氏

鈴木満氏



### 断熱・遮熱・遮断性能に優れる／複層ガラス

複層ガラスの主な性能は、断熱や遮熱・遮断性能の高さ。ガラスの表面温度も下がりにくく、結露の発生も少ない。高性能複層ガラスなら1枚ガラスの2倍以上も日射熱を遮断でき、紫外線も大幅にカットできる。さらにこれまで弱点だった防音面の対策として、2枚のガラス厚を変えたり、中空層に特殊ガスを封入した製品も登場。

### 結露防止や省エネのため新たな試みも／DPG工法

DPG (Dot Point Grazing) 工法は、ガラスをボルトとテンション材によって支え、開放的で透明感の高い空間を作り出すもの。「クワトロノード」と「テンショントラス構造」を使う。通常は2.0m × 2.0mの強化ガラスを用いるが、結露防止や省エネのため複層ガラスを使ったり、楕円平面にダブルスキン構造を採用して外部負荷を軽減した例もある。

## 【木造住宅用高気密・高断熱工法】

平成11年9月22日

講師：江本工業(株) 浜田康司氏・高野俊郎氏

浜田康司氏



### 結露は夏も冷房によって生じる

外壁通気層工法は、あくまで北海道における高断熱住宅の冬の壁内結露対策として考案されたもの。夏に冷房を使う他地域で用いた場合、外からの湿気が断熱材の内側で結露する「夏型逆転結露」の危険を伴う。木は密閉された状態では本来の強さを失う。結露対策は冬だけでなく夏も必要。

### 信州の気候風土に合った工法を

冬・夏両方を乗りきるには、湿気の侵入を防げる材料を断熱材に使う必要がある。また木から出る水分を発散させるため、木材が常に外気にふれられる仕組み作りも大切。結露対策には、その地域の気候風土に合った独自の工法を用いることが不可欠で、これを追求することこそ「匠の技」であろう。

## 【県産木材】

平成11年10月27日

講師：長野県県産材振興対策協議会 諸中章氏  
長野県林業振興課 榎秋隆哉氏

県産材利用の現状や今後の方策を説明する諸中氏と榎秋技師



### 業界と消費者結ぶ流通システム構想

木材業界の加工体制は、企画開発力や品質の均一化、低コスト化、ニーズ把握などの課題を抱えている。部材の基礎的な情報提供など何にでも対応できる体制を作り、製品流通の活発化を目指さなければならない。

県内資源を有効に利用し、循環型社会をつくるためにも地場材流通を推進したい。そのための確かな情報提供や木材業界における組織的事業展開が必要。そこで品質保証や営業支援、情報提供、製品供給を一元的に行い、木材業界・建築業界・消費者の連携の核となる「県産材製品流通センター」の構想が浮上した。県林業振興課では、このシステムの平成12年度中の立ち上げを考えている。

## 堀誠さん 伝統的技能者の表彰を受ける

### ～第42回建築士会全国大会～

10月22日、長野市・ビッグハットにおいて、第42回建築士会全国大会が開催された。大会では、平成11年度伝統的技能者表彰者の表彰式がおこなわれた。日本建築の伝統的文化の発展に大きく貢献した職人を選ぶこの表彰を、全国で30名、うち長野県からはただ一人、堀誠さん（堀建築設計事務所、長野市）受けた。そこで堀さんに、現在の心境や今後の展望などを聞いた。

#### 味わい深い家をじっくりと

表彰の栄誉をいただいたのは、名匠会の宮本副会長のご指導を受けながら仕事に精を出したり、いつも当会の定例研修会に出席して学びを積み重ねてきたことへのごほうびではないでしょうか。この誇りを励みに、仕事も名匠会の活動もますます頑張っていくと心を新たにしています。

現在は、信頼しあえる仲間2人と組んで年2～3件の個人住宅の新築、増改築を手掛けています。自然の恵みである木を扱う者として、木の生い立ちを生かした温もりある手作りの家をつくらうという気持ちは、独立した30数年前から変わりません。手作りのよさは雑さ、荒っぽさではなく、基本をしっかりと押さえた上で自分なりの工夫を加えることから生まれる「味わい」。深い味のある家を、じっくり楽しみ



ながらつくっていききたいですね。もちろん、名匠会やいろんな場で、住宅関連の勉強を続けながら。

#### 職人の生の声から学びたい

当会の研修会は、各分野の腕の立つ職人さんから直に学ぶべる貴重な場です。参加し続ける中で、学び・気づきがきつとあります。それはやがて自分の仕事にも生きるでしょう。多くの会員の参加を心から望んでいますし、そのためにも仕事と並んでこれからいっそう会の活動に力を入れていきたい。

また、異業種の会員同士、生声を聞く場がもてると嬉しいですね。話上手でなくていいから、成功談や失敗談、仕事で学んだことを互いに自由に話せる、肩肘の張らない座談会のような。

もうひとつ、副会長が毎回出席してそのつどお話ができるよう、副会長のご都合を考慮して研修会を開けないでしょうか。名匠会の活動の底流にある家づくりに対する思想を再確認し、会員が集まる機会ごとに新たにご指導をいただければ、会の活動への理解も深まり、もっと活発になっていくように思います。

#### ○堀誠さんプロフィール

1973年（昭和42年）生まれ。15歳より2人の師匠につき7年間大工修業の後、建設会社勤務を経て29歳で独立。二級建築士。

去る12月15日夜、信州名匠会名誉会長の池田三四郎先生が90歳で逝去されました。先生は松本の木工家具の伝統と洋式家具の技術を併せ、現代の民芸家具を確立されるとともに、信州名匠会の発足に当たっては、多大なご尽力を賜りました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。尚、社葬は来年1月19日の予定です。



### ●信州名匠会新会員紹介 (H11.12月2日現在)

職種★氏名★会社名★住所★TEL

○製材★鎌倉良収★(株)鎌倉材木店★長野市高田854-4★☎026-223-4131

○サッシ★大井芳也★(株)山二★長野市小島180★☎026-259-1051

○暖炉・サウナ★鳥羽英夫★長野サウナ販売(株)★長野市篠ノ井会614★☎026-292-4855

○暖炉・サウナ★山本耕平★長野サウナ販売(株)★長野市篠ノ井会614★☎026-292-4855